

維持管理上のご注意

壁紙は色柄などの意匠性を重視した仕上げ材です。コンクリートなどの他の建材と異なり、長期間に渡る維持はできません。適切なメンテナンスを行いながら使用状況に応じて5～10年を目安に張替えをおすすめします。

維持管理上のご注意

壁紙のメンテナンス

(工事終了後、以下の内容について入居者の方にご説明ください)

壁紙は室内のホコリや結露、油汚れや手アカ等の付着により徐々に汚れていきます。また、結露はカビの発生や壁紙のハガレを誘発させることもあります。使用状況や環境にもよりますが、仕上りの美しさを維持するには、日常のメンテナンスと使用上の注意が必要となります。

一般的注意事項

1. 入居後は、まず換気を

施工時の臭いが残っている場合がありますので、入居後一週間程度は十分に換気を行ってください。

2. 直射日光からの保護

直射日光が長時間当たると、紫外線により壁紙の劣化と変退色が徐々に進みます。カーテンやブラインドを使用し、直射日光を避けるよう心掛けてください。

3. 熱風、高温を避ける

ストーブ等の暖房器具の熱風が直接壁紙に当たらないようにしてください。また、キッチンのレンジやダウンライトのすぐ近くなど、高温になる場所への使用は避けてください。熱により壁紙が変形、変色することがあります。

4. 粘着テープを貼らない

粘着テープ(セロハンテープやガムテープ等)を壁紙に貼付けないでください。テープの粘着剤が壁紙に移行し、変色や汚れの原因となります。また、粘着テープを剥がす時に壁紙を破損することがあります。

5. 薬品や化粧品などを付着させない

スプレー式の薬品、殺虫剤、化粧品等を壁紙に付着させないでください。壁紙が変色することがあります。

6. 傷を付けない

壁紙表面を破損しないようご注意ください。破損すると補修が困難です。日常生活において、家具や荷物等を当てない注意が必要です。

表面強化 の表示のある壁紙は、傷が付きにくくなっています。

7. 家具を壁面に密着させない

家具の塗料に含まれる色素やベニヤの色素により、壁紙が変色することがあります。家具と壁紙との間に空間の余裕を取ってください(結露やカビの予防にもなります)。

汚れ

壁紙の汚れには多種多様なものがあります。重要なことは「汚染物を付着させない」と、「付着したらすぐに拭取る」ことです。汚れが付きやすい場所には「**汚れ防止**」の表示のある壁紙をおすすめします。ただし、汚れの種類によっては完全に拭取ることができないものもありますのでご注意ください。

●日常のお手入れ

日常のお手入れは、ハタキをかけたり布・タオル等でホコリを拭取ってください。

- ホコリを長期間放置すると、湿気や油分を吸って取りにくくなります。
- 調理による油煙やタバコの煙は壁紙を短期間で変色させてしまうため、常に室内の換気に心掛けてください。

●汚れが付着したら

1. 水性の汚れ(飲食物や調味料等)

水性の汚れが付着したら、すぐに固く絞ったタオル等で汚れを吸い取るように水拭きしてください。取れにくい場合には中性洗剤を薄めたものをご使用ください。

●水の絞り方が弱いと目地部から染込むことがあります。シミやハガレの原因となりますのでご注意ください。

●中性洗剤を使用した場合は、必ずきれいな水で壁紙表面に残った洗剤を拭取ってください。洗剤が残ったままだと変色の原因となります。

●シンナー等の有機溶剤は変色や色落ちの原因となりますので使用しないでください。

●長期間放置されて染み込んだ汚れは、頑固な汚れとなり落とすことができなくなります。

2. 油性の汚れ(油汚れやマジックペン等)

頑固な汚れとなり一般ビニル壁紙の場合、拭取ることができなくなります。

<汚れ防止壁紙の場合>

表面のフィルム加工により壁紙内部に汚れが浸透しにくく、汚れが拭取りやすくなっています。水拭きまたは中性洗剤を薄めたものをご使用ください。また、最後は必ずきれいな水を用いて残った洗剤分を拭取ってください。凹部などの細かな箇所などは歯ブラシを用いると効果的です。油性マジックなどの頑固な汚れには消毒用アルコールが使用できますが、完全に拭取ることができない場合があります。シンナー等の有機溶剤は変色や色落ちすることがありますので、あらかじめ目立たない箇所を確認してからお使いください。なお、タバコのヤニのように、長期にわたって蓄積された汚れは完全に拭取るとは困難です。